

# 小学校 第2学年 音楽科 学習指導案

山形大学  
教授 佐川 馨

**題材名** くりかえしと かさなり (3時間)

**題材のねらい** 楽器の音や、旋律や音型の反復と重なり、速度の変化が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲想を感じ取って表現を工夫したり、曲の楽しさを見いだして聴いたりする。

**本時のねらい** 「汽車は 走る」の曲想と、速度や反復など音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の表す情景との関わりに気付く。

**指導時期** 1月中旬～下旬

## 指導者用デジタル教材活用の意図・目的

「汽車は 走る」は、歌や楽器の演奏を通して旋律や音型の反復と重なり、速度の変化が生み出すよさや面白さを感じ取らせる上で最適の教材である。汽車が走る場面を想像しながら歌唱や演奏を工夫する学習は子供たちの音楽的な見方・考え方を育て、その後の音楽学習の基盤となる諸能力を高めていく。

紙の教科書では授業の展開に合わせて譜例を示したり音源を用いたりする場合、どうしても一定の時間がかかってしまい、授業の山場に向けた高揚感や期待感が低くなったり子供たちの集中力が途切れたりしてしまうことがある。

「指導者用デジタル教材」を用いることによって、範唱や範奏の音源や譜例は瞬時に示すことができる。また、拡大された楽譜やパート別の音源、ドレミ表示を活用することによって、紙の教材ではつまずきがちであった子供でも、学習状況が大きく改善されることが期待できる。

## 本時(第1時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導者用デジタル教材」の初期画面を開き、「目次を開く」から「くりかえしと かさなり」のページを表示する。</li> </ul>	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
--	------	---------------

導入

「**汽車は走る**」の旋律や曲想を捉える。  
 ●「**汽車は走る**」の歌唱を聴いて、旋律や曲想を捉える。

●「**汽車は走る**」の「**歌唱**」アイコンをクリックする。



●子供の様子を確認しながら複数回歌唱の音源を流し、話し合いの場面では音源を流しながら、「紙面」タブに移動する。



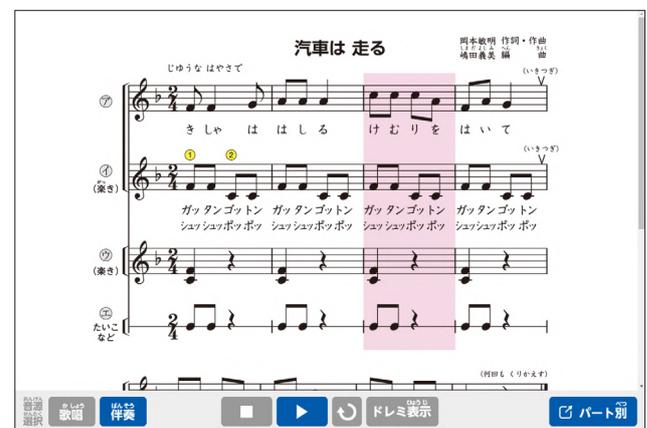
●汽車がどんなところを走っているのか自由に想像し、発表し合う。

●話し合いの場面では、発表内容に応じて「**音楽のもと**」を活用する。

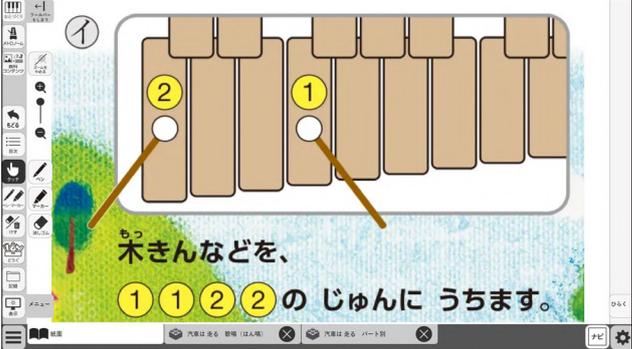
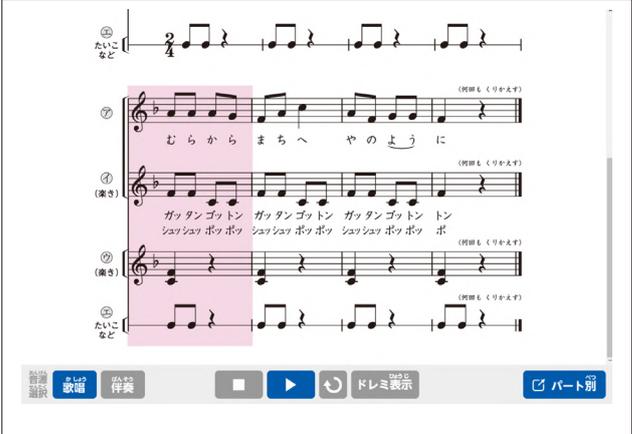


展開

「**汽車は走る**」の**ア**のパートを歌う。  
 ●**ア**のパートを歌う。  
 ●**ア**のパートを歌った後に、発表したことを生かして、速度や歌い方を変えながら繰り返し歌う。  
 ●汽車が走る場面を想像しながら汽車の動きを取り入れたり、歩いたりしながら歌う。



●音源選択の「**伴奏**」を選択して、音源に合わせて歌う。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<p>⑦のパートに①のパートを加えて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●①のパートの範奏を聴く。</li> <li>●①のパートを木琴で打つ。</li> <li>●①のパートを範奏に合わせて打つ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●①のパートを範奏に合わせて歌う。</li> <li>●①のパートを、汽車の様子を想像して速さを変えながら繰り返して歌う。</li> <li>●①のパートの歌詞「ガッタンゴットン」「シュッシュッポッポ」を、奇数回と偶数回で交互に歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「パート別再生」を開き、音源選択の「全パート」や「①」を選択する。</li> <li>●適宜「ドレミ表示」や木琴の拡大表示も活用する。</li> </ul>   
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●①のパートと主旋律とを合わせて歌い、反復や速度の変化、音の重なりのおもしろさに気づく。</li> </ul>	

## 指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

歌唱と器楽、鑑賞を組み合わせた題材の学習効果は高いが、教材研究や準備の時間と手間は歌唱のみの活動よりも多くなってしまいます。また実際の授業の場面においても取り扱う内容が多くなるため、子供の学習状況を見取りながら適切な支援をすることが困難になりやすい。指導者用デジタル教材を活用することによって、授業準備に要する時間が効率化され、子供の学習支援そのものに目を向ける余裕が生まれる。そのような授業の積み重ねが子供たちの生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育てていくと考える。